



吉田 藍

いま、この仕事に夢中⑦ 大工

大工への道 吉田さんの場合

佐賀県生まれ → 名古屋女子大学高等学校(愛知県)卒業 → 名城大学(愛知県)工学部建築学科卒業 → 株式会社平成建設入社

大工は身近なものを作る仕事

大学は、理工学部建築学科で、おもに住宅や美術館や、そのほかさまざまな施設などの建物の設計を学んでいました。大学で建築学科を選んだのは、建築をやりたいからというか、「やってみたくない」ぐらいの気持ちからでした。小さいころから、木工が趣味の一つである父の影響でか、物を作ることに興味がありました。それと、将来どのような仕事につくか考えたときに、自分の生活に身近な物のほうが興味がわきやすいと思って、衣食住でいったら住の「家」と考えたのが、建築学科に進んだことにつながったと思います。

就職にあたって、自分が大工という仕事を選ぶときに考えたのは、「仕事は自分がいちばん楽しいと感じられることをしたい」ということです。

楽しいというのは、つらかったりしてもやりがいがあるって、自分が仕事をしていて楽しいなと思えるようなことで、じやあ、物を作ることに興味があるなら家を作る大工だ、と選んで選びました。

現在は一戸建て住宅の建築を、棟梁一人とわたしと分野ごとの専門業者さんで

建築を進めています。

たとえば今日の作業は、図面を見て、実際に寸法を測ってみて、その寸法どおりに防火材を切って張っていくということを担当しています。寸法を測って、切って、取り付けてという作業ですね。いつでも長さを測るスケールを持っていて、測ってみて、「この高さからこの高さまでいくつ」っていうのを、たし算したり引き算したりわり算したりっていうふうにやっています。大学みたいに難しい数学は必要ありませんが、計算はできたほうがいいかもしれませんね。

「この人に任せたい」と思われる大工に

図面を見て、実際に測って寸法を出してみたときに、びったり組めるかというところですが、使う材料によってはなかなか難しいなど感じる時もあります。

大工仕事の楽しさの一つは、たとえば、床と框を合わせたときや柱に床をつきつけたりするときに、「びったりつけられてうまくいった」ときの快感です。建築の材料は、真つすくな物ばかりではないので、そういうときの加工が難しいときがありますね。

大工になるには？

●大工自体は、資格がなければいけない職種ではない。建設会社や建築の工務店に就職し、経験を積みながら腕を磨いていく。腕と経験が認められれば、棟梁として仕事を任せられるようになる。顧客の信頼を得るために、各種の技能士資格をとる必要性もある。



▲寸法を測っているところ。



▲ヤスリで切断面の処理。



▼マイのこぎりで加工中。

たとえば、加工していない天然無垢の木材を使っていると、そういう木材は真つすくではない部分もあるので、材料と材料がびったり合わさるように表面を整えたり、凹凸のある表面に合わせて接着面を加工したりします。細かい細工が上手にできるようになるにはまだまだこれから経験が必要です。

大学では設計を学びましたが、仕事として設計をしたとは、今は思っていないです。

大工として、作る仕事をやりたいです

し、作れるようになりたいですね。大工になって3年目。大工は10年続けてやっと一人前かなという仕事なので、まだまだ全然経験がたりません。入社したころとは違って、責任も増えましたし、「こんなことも知らないのか！」なんて怒られることもあったりして、なかなかつらい時期ですが、でも、お客さまのものとなる、ずっと形として残る家を作ることは、やりがいがあるところあるし、「この人に任せたい」と思われるような大工になりたいので、がんばります。 平成建設